



自慢の歌声を披露

11月7日、山岡中学校で全校合唱祭が行われました。オープニングにふさわしく和太鼓の発表から始まった合唱祭は、「感唱 声を出して感動する合唱を」を全校スローガンに、各クラスでもスローガンを掲げ歌声を披露。

全校、学年、クラスでの合唱では全員が一丸となって練習の成果を発揮し、体育館いっぱい素晴らしい歌声が響き渡ると、会場にいたすべての人から、盛大な拍手が送られました。

◀体育館に広がる、全校生徒による歌声

子どもを暴力から守れ

11月6日、大井第二小学校で家庭教育学級として「CAPプログラムおとなワークショップ」が開かれました。CAPとは、子どもが自分自身で暴力から身を守るためのプログラム。子どもの行動を制限するのではなく、自分の大切さを教え、子どもが本来持っている力を引き出してやろうというものです。

ワークショップでは、役割劇などを通して子どもの権利の大切さや子どもとの接し方などを学んでいました。



いざというときのために、おなかの底から声を出す練習 ▶



日本文化でおもてなし

市国際交流協会は、毎年中学生の派遣事業でお世話になっているオーストラリアのホストファミリーの皆さんを、11月5日から14日まで当市へ招待しました。今回、来訪されたメンバーは、学校の副校長、ホームステイ先の方たち。8日には色鮮やかな和服を着て、大井文楽の鑑賞や人形の説明を熱心に聞き入るなど、恵那市や日本の文化を体験していました。

◀和服姿で大井文楽の人形の説明に聞き入る皆さん



私の声が届いていますか

11月2日、武並小学校で5、6年生と父兄を対象に、田口喜久子さんの講演会が開かれました。田口さんは、生まれつき耳が不自由ながら、子育て真っ最中の同校保護者の一人。小さいころの体験や子どもとのコミュニケーションの様子などを講演しました。「聞こえないことは壁ではないけど、特別扱いされることが大きな壁になる」と田口さん。「ちゃんと視線を合わせて話せば、お互いがもっと分かり合えるはず」と話していました。

◀手話を交えながらの講演に子どもたちも熱心に聞き入った

伝統の技の競演

11月3日、恵那文化センターで第9回県文楽・能大会えな2004が開催されました。恵那市では2回目となる大会は、国・県の重要有形、無形民族文化財の指定を受ける県内4つの保存会が、郷土に伝わる心と技を披露しました。地元大井文楽保存会のみなさんによる日高川入相花王渡し場の段では、清姫の人形の顔が蛇に変わる場面、蛇となって川を渡る場面など見ごたえがありました。

日高川のたもとで清姫の人形の顔が蛇に変わった場面 ▶



飛び交うハチもお構いなし

11月3日、恒例の全国ヘボの巣コンテストが串原のコミュニティーセンター前で開かれました。ヘボの保護・増殖と地域おこしを目的に11年目を迎えたこの大会。県内外から愛好者が集まり、持参したヘボの巣の重さを競いました。今年は台風と長雨の影響で天然巣部門のエントリーは6件と少なめ。優勝は1,550㌔で愛知県足助町の原勝之さん。飼い巣部門は、148人のエントリー中、長野県阿南町の金田純夫さんが5,070㌔で優勝しました。

◀飼い巣部門で優勝した金田さん夫妻。5*を超えぬ巣を公開



見直そう古里の魅力

三郷町で11月13日、「地域の魅力を見直そう」と体験企画が開かれました。えな土地改良区の呼び掛けに恵那農業高校や岐阜大学の学生、地元住民、有識者らが参加。午前中、3班に分かれて史跡や景観など地域の魅力を探すツアーを実施しました。午後は宮盛座で各班の報告を受けながらの意見交換会を開催。参加した地元の人々は「三郷町にはたくさんの観光資源があるのだから、外へ向けて発信し、活性化を図りたい」と話していました。

◀車座になって活発な意見が交わされた

ヒノキの間伐でナメコ栽培

山岡町下手向の西尾宣典さんは、三年前から自宅の裏山を利用して十数種類のキノコを栽培しています。今春、ヒノキの間伐材にナメコの菌を打ち込んだところ、この秋見事に成長したナメコが顔を出しました。ナメコ栽培に使う原木は、サクラやネムなどの広葉樹が一般的で、防菌作用の強いヒノキにナメコが生えるのは珍しいとのこと。西尾さんは「ヒノキの間伐材活用の促進につながれば」と話していました。

ひと味違う原木ナメコ。少ないのは収穫したばかりのため▶



実りの秋に感謝

11月13日、東野小学校で収穫祭が行われ、全校児童のほかに児童の家族や地域の高齢者、幼稚園児など約250人が参加しました。児童が育て収穫した米でおにぎりを作り、サツマイモを焼き芋にして、グラウンドでみんな一緒に食べました。

6年生の長谷川愛さんは「おにぎりも焼き芋もとってもおいしかった。みんなで一生懸命作ったかいがありました」と満足げに話してくれました。

◀秋晴れの下、焼きたてアツアツの焼き芋をほお張る



五平もちで味わう収穫

11月13日、長島小学校で5年生の親子による五平もちづくりが行われました。この日使ったお米は、5年生が総合的な学習の時間に作ったお米で、今年は天気も良かったため、玄米で214kgを収穫。母親委員が炊いたご飯を受け取ると、上手にご飯をこねてわらじを作り、炭火で焼きました。

焼きたての五平もちをほおばり、児童たちは「おいしい」と声をそろえて喜んでいました。

◀焦げないように、真剣な面持ちで焼く児童たち

秋の味覚が満載

アグリパーク恵那では11月13日、恵那アグリエンジョイネットによる「炭火で秋を味わおう」が開催され、子ども連れの家族などでにぎわいを見せました。

秋晴れの中、U字溝で焼いた五平もちやいもごねもち、マスの塩焼きなど秋の味覚が人気を呼び、大勢の方が秋を満喫。

また子どもたちは、五平もちの作り方を教わると、自分だけの五平もちを焼いてもらい、喜んで味わっていました。

五平もちの作り方を教えてもらう子どもたち▶



上矢作で福寿まつり

11月14日、上矢作公民館周辺で第12回福寿まつりが開催されました。合併後、最初の祭りで天候も心配されましたが、各地区の太鼓の競演・津軽三味線の演奏・アンパンマンショー・チェンソーアート・グラウンドゴルフなど多彩なイベントが開催されました。最後には餅投げもあり、参加された方は秋の有意義な1日を思う存分楽しんでいました。

◀各地区に伝わる太鼓の競演